

国立大学法人

大阪教育大学

環境報告書

2014



OSAKA KYOIKU
UNIVERSITY

もくじ

○ 学長挨拶	1
○ 大阪教育大学環境報告書2014の作成にあたって	2
○ 大学概要	3
○ 事業概要	5
○ 環境方針	6
○ 環境マネジメント組織	7
○ 環境配慮実施計画	8
○ マテリアルバランス	12
○ 環境負荷データ	13
○ 環境マネジメント活動の推進	
・ 環境保全活動の状況	17
・ 省エネルギー活動	20
・ エネルギー削減の取り組み状況	22
・ 安全・安心への取り組み	23
・ 地域社会への取り組み	26
・ 学内での取り組み	29
○ 配置図(柏原キャンパス)	33

表紙の解説

表紙の写真は、北西門から階段を上ったところの脇にある「桜」です。

ソメイヨシノは落葉広葉樹の代表であり入学式のシーズンに満開になることからキャンパスにも沢山植えられています。柏原キャンパスには教職員が植えたものと、山中の山桜をはじめ沢山の種類が咲いています。

桜（ソメイヨシノ）は、バラ科サクラ属サクラ亜属の落葉樹
学名：Prunus Yedoensis

学長挨拶

環境報告書の公表にあたって（平成26年9月）



国立大学法人大阪教育大学長

栗林 澄夫

今年新たに学長に就任いたしました栗林です。よろしくお願いいたします。

私達教職員が子供の頃には、夢の超特急 新幹線「ひかり」などオリンピックを東京で開催する目標が進められていたプロジェクトが沢山あったことが思い起こされます。再び東京オリンピックが開催される運びとなったことには多くの方々のひとかたならぬ努力があったことは周知の事実であります。2020年には、超伝導磁石によるリニア新幹線で東京まで観戦に行けることを期待してオリンピック開催を応援しようと思います。

一方、東北の地震災害復旧は中々進まず、いろんなところで苦戦されていることを気にかけております。お手伝いできることがあれば、と考えております。また、原発が全て停止している中、今年の電力会社の総会では原発の廃炉提案が全ての電力会社の総会で否決され、再開に向けた取り組みだと受け取られているようですが、安全は担保されているのでしょうか。まだまだ方向性が見えるまでには時間がかかりそうです。「廃炉にする技術」、「格納容器の技術」など原発最新の技術を次世代の人に引き継ぐことが重要であると思います。

本学が柏原キャンパスに来たのは平成4年であり、冷房設備がない講義室が未だ沢山あります。昨今の気温上昇に対処するため、順次空調機の整備やサッシの二重化などを行っていますが、電気使用量が増えないようにエネルギーミックスや建物断熱化を進め省エネルギー化を図りながら、不必要なエネルギーを削減しています。また、本学は周辺部に森林を所有していますが、時が過ぎ倒木や葛などの蔓が繁殖し荒れてきていることから、樹木の活性化を促す方策を立案するなど「カーボンオフセット」いや「カーボンマイナス」の取り組みを目指したいと考えております。

採石採取場あとから再出発したキャンパスは樹木も大きく成長し沢山の実を結んでおります。どんぐりの実をどんぐり銀行に送り、苗木として皆さんの手に届く取り組みにも参加しています。学内でも小さな苗木が育っており、荒れた法面の整備などに役立つ日がくるのを楽しみにしています。

これからも環境に対する取り組みに力を注ぐ事は勿論のこと、このキャンパスから育つ学生達には環境マインドを持ってもらう努力をいたします。

皆様にはこれからもご指導ご協力をお願いいたします。

大阪教育大学環境報告書2014の作成にあたって

方針

「環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律（環境配慮促進法）」の施行により、平成18年度より大阪教育大学では、環境報告書を作成、公表してまいりました。大阪教育大学は平成16年4月に法人化し、大学の独自性が問われる中、省エネの取り組み、古紙のリサイクル等環境負荷削減に取り組んでまいりましたが、なお一層の取り組みが必要であると考えております。大阪教育大学環境報告書2014は、本学の教職員、学生、本学への入学を希望されている方々、保護者及び近隣住民に対して、平成25年度の大阪教育大学の環境についての現状を報告するものとして作成いたしました。

報告書の対象範囲

大阪教育大学柏原キャンパス

報告書の対象期間

平成25年度（2013年4月～2014年3月）

※但し一部内容については2014年8月までの内容を含む。

参照ガイドライン等

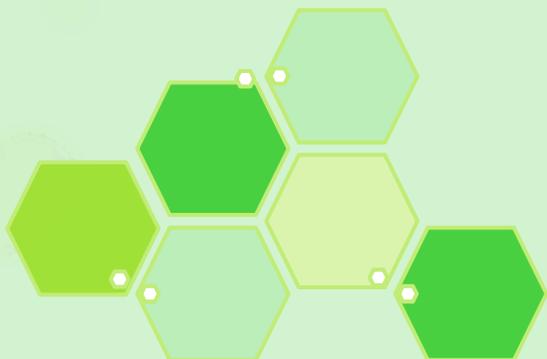
- ・「環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律」に基づく「環境報告書の記載事項」
- ・環境省「環境報告書の記載事項等の手引き」
- ・環境省「環境報告ガイドライン（2007年版）」

発行年月

平成26年9月

次回発行予定

平成27年9月

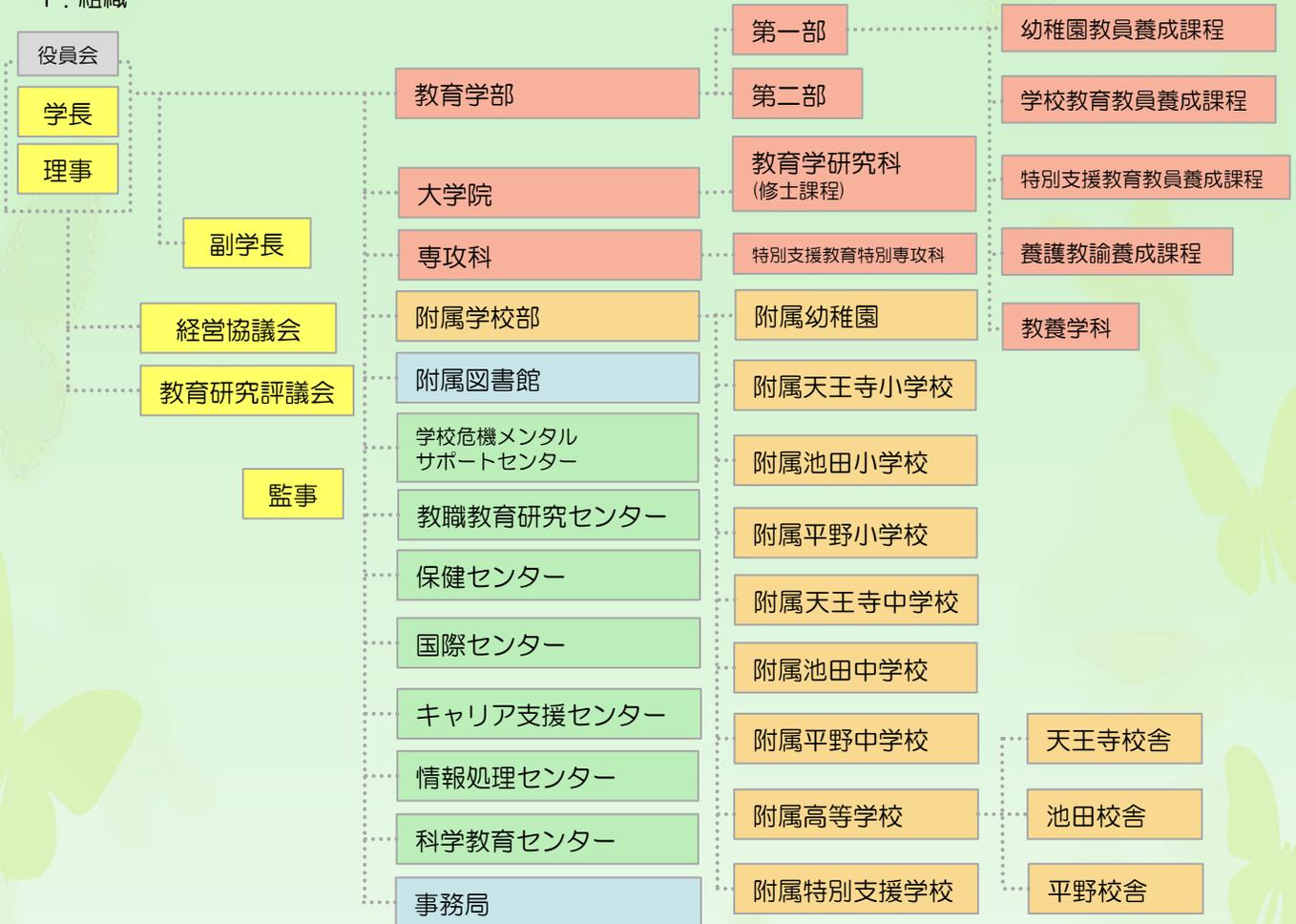


大学概要

大阪教育大学は、1874年（明治7年）8月に設置された教員伝習所にその起源を有する我が国有数の教員養成系大学です。

現在の大阪教育大学は、大阪府柏原市の金剛生駒紀泉国定公園内に約67万㎡のメインキャンパスを配置し、教員養成教育と教養教育を通じて有為な人材を輩出する一方、国際都市として交通アクセスはもとより情報・産業の中核機能を有する大阪市内に天王寺キャンパスを擁し、大阪市天王寺区、平野区及び大阪府池田市の3地区に初等・中等教育並びに特別支援教育に対応した附属学校園とともに総合的な教育系大学をめざしています。

1. 組織



2. 職員数（平成25年5月1日現在）

学 長	理 事	監 事	合 計
1	4	2 (1)	7 (1)

教授	147
准教授	91
講師	13
助教	1
附属学校教員	261
事務系職員	153

3. 学生数

■教育学部（平成25年5月1日現在）

第一部 教員養成課程・教養学科

教員養成課程	2,076 (5)
教養学科	1,765 (57)
合 計	3,841 (62)

第二部 小学校教員養成5年課程

1年次入学	200
3年次編入学	150
合 計	350

大学院教育学研究科

学校教育専攻他17専攻	432 (32)
-------------	----------

特別支援教育特別専攻科

特別支援教育特別専攻科	26
-------------	----

外国人留学生は（ ）
で外数で記入

事業概要

本学は、その主目的である教員養成の他、幅広い教養と豊かな人間性を身につける教養学科を置き、加えて、それぞれを基礎に置く大学院を設置しています。

また、聴覚言語障害教育の充実に資するため、主として現職教員を対象とした特別支援教育特別専攻科を置いています。

1. 教育学部

本学教育学部には第一部〔柏原キャンパス〕・第二部〔天王寺キャンパス・夜間〕の教員養成課程と教養学科があります。

(1) 教員養成課程

① 第一部

卒業と同時に所属する課程・専攻に対応する教育職員一種免許状授与資格を得られるように編成されています。

課程は、学校教育教員養成課程、特別支援教育教員養成課程、幼稚園教員養成課程、養護教諭養成課程があります。

② 第二部

天王寺キャンパスにおいて、昼間に学べない勤労学生等のために門戸を開いており、課程は小学校教員養成5年課程で、卒業と同時に小学校教員一種免許状授与資格を得られるように編成しています。

(2) 教養学科

現代社会の要望に応える幅広い教養を身につけることができる人材を育成することを目的として、8専攻を設けています。人間科学専攻、文化研究専攻、数理科学専攻、自然研究専攻、情報科学専攻、スポーツ専攻、健康生活科学専攻、芸術専攻

2. 大学院教育学研究科（修士課程）

本学の大学院教育学研究科(修士課程)の組織は教員養成課程を基礎に置く大学院と教養学科を基礎に置く大学院に大別でき、その各々に現職教員、社会人等を対象とする夜間大学院を設けています。

また、すべての専攻において、基礎となる一種免許状授与の所要資格を有している場合に限り、専門分野に対応する教育職員専修免許状授与の資格を得ることが可能です。

(1) 教員養成課程を基礎に置く14専攻

- | | | |
|---------|---------------|----------|
| ①学校教育専攻 | ②国語教育専攻 | ③社会科教育専攻 |
| ④数学教育専攻 | ⑤理科教育専攻 | ⑥英語教育専攻 |
| ⑦家政教育専攻 | ⑧音楽教育専攻 | ⑨美術教育専攻 |
| ⑩保健体育専攻 | ⑪特別支援教育専攻 | ⑫技術教育専攻 |
| ⑬養護教育専攻 | ⑭実践学校教育専攻(夜間) | |

(2) 教養学科に基礎を置く4専攻

- | | | | |
|---------|-----------|---------|-------------|
| ①国際文化専攻 | ②総合基礎科学専攻 | ③芸術文化専攻 | ④健康科学専攻(夜間) |
|---------|-----------|---------|-------------|

3. 特別支援教育特別専攻科

聴覚言語障害教育の充実に資するため、主として現職教員を対象として特別支援教育に関する専門教育を行い、この分野における教育を担当し得る教員の養成を目的に設置しています。

修了年限は1年で、すでに教員免許を有しているものを対象としています。

環境方針

■ 基本方針

大阪教育大学は、地球環境の保全が大きな問題であることを真摯に受け止め、教育研究及びあらゆる活動を通じて、地域を含めた良好なキャンパス環境の維持保全に努めます。
また、教員養成系大学として高い学識と豊かな教養をもち、環境問題に理解のある人材を育成します。
このため、特に次の事項について推進して行きます。

1. 省エネルギー、廃棄物の抑制、資源の再利用、環境汚染防止等全ての環境負荷の低減に継続的に取り組みます。
2. 美しく豊かなキャンパス環境の実現に向けた緑化整備、環境美化等について、全ての大学構成員の参加によるプログラムを推進します。
3. 環境に関する法令を遵守し、さらに自主管理規程を制定し、大学の社会的責任を果たします。
4. この基本方針を達成するため、環境配慮目標を設定し、環境情報を提供するなど、全ての大学構成員により、環境保全に取り組みます。
5. この方針は、BBS（電子掲示板）をもって全構成員に周知するとともにインターネットのホームページを用いて、広く社会に開示します。

平成26年9月

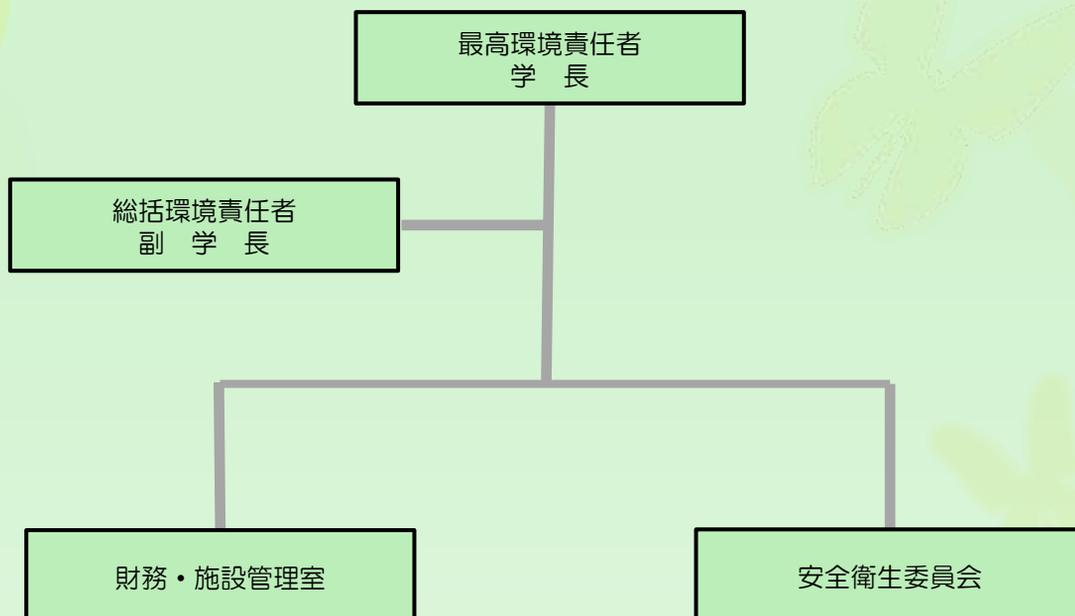
国立大学法人大阪教育大学
学 長 栗 林 澄 夫



環境マネジメント組織

(平成25年5月1日現在)

本学には施設・環境に係わる計画、整備及び維持保全について、担当理事(副学長)を室長に教員、事務職員で構成する財務・施設管理室が審議検討を行っています。また、教職員の危険並びに健康障害の防止等安全衛生については、担当理事(総務企画担当)を委員長に審議検討を行っています。



委員会等構成

財務・施設管理室	
担当理事 (室長)	
管理部 長	
学長指名職員	理事 1 名
	教授 1 名
	財務課 長
	契約室 長
	施設課 長
	人事課 長

安全衛生委員会 (規程・第23条)	
担当理事 (委員長)	
産 業 医	
衛生管理者 (学長指名)	
安全衛生経験者 (学長指名)	
危害防止担当者 (学長指名)	
健康障害防止・リハビリ対策 (学長指名)	
学長指名委員 2 名	

環境配慮実施計画

大阪教育大学の環境配慮の目標は、「省エネルギー・省資源の推進」「廃棄物の抑制」「環境汚染防止」「環境教育等の充実」「地域貢献」「喫煙対策」「学内美化」の項目を実施計画とし、進めて行きます。

平成25年度の実施計画、評価 (自己評価の○は計画達成、△は一部達成、×は未達成を示します。)

■ 省エネルギー・省資源の推進

項 目	実 施 計 画	自己評価
エネルギー使用量・温室効果ガスの削減	<input type="checkbox"/> エネルギー使用量及び温室効果ガス排出量を前年度比1%削減する。 <input type="checkbox"/> 掲示物等で省エネの啓発を行う。 <input type="checkbox"/> 廊下・トイレ等の照明の自動点灯・消灯装置への更新、教室等の照明器具のHf型照明器具への更新する。	○
水使用量の節減	<input type="checkbox"/> 掲示物等で節水の啓発を行う。 <input type="checkbox"/> トイレの手洗い自動水栓の導入を行う。 <input type="checkbox"/> メーターを検針し、水使用量を把握して大きな漏水がないかチェックする。	○

■ 廃棄物の抑制

項 目	実 施 計 画	自己評価
一般廃棄物の排出抑制	<input type="checkbox"/> 分別回収の徹底強化する。 <input type="checkbox"/> 大学生協のランチボックス等紙パックの回収する。 <input type="checkbox"/> 掲示によるマナー啓発活動の展開する。	○
用紙使用量の削減	<input type="checkbox"/> 用紙の両面利用を推進し、使用量の節減を図る。 <input type="checkbox"/> 学内連絡や会議用資料の保存等を紙から電子記録媒体に移行する。	○

■ 環境汚染防止

項 目	実 施 計 画	自己評価
実験廃棄物等の管理	<input type="checkbox"/> 学長統括の下、大阪教育大学実験廃棄物等管理委員会において適正管理する。	○
実験廃棄物の廃棄	<input type="checkbox"/> 大阪教育大学実験廃棄物等取扱規程に基づき、実験廃棄物を排出する実験廃棄物等取扱者が、実験廃棄物等取扱責任者の指導監督の下、廃棄処分する。	○
実験用劇物等の管理	<input type="checkbox"/> 購入者がその都度、薬品名・薬品番号・購入単位・購入年月日・受入量・使用者を受払簿に記載する。 <input type="checkbox"/> 大量の物は屋外の鍵付き保管倉庫に、少量の物は屋内実験室等の鍵付き保管庫に保管する。 <input type="checkbox"/> 受払簿は保管庫倉庫内と保管庫内に保管する。 <input type="checkbox"/> 受払簿は使用する毎に記載する。	○

環境配慮実施計画

■ 環境教育等の充実

項 目	実 施 計 画	自己評価
環境教育の充実	<input type="checkbox"/> 教材園での栽培を通して、自然環境の大切さを学ばせる。	○
環境保全意識の啓発	<input type="checkbox"/> 春と秋、年2回のキャンパスクリーン週間を設け、自分達を取り巻く環境は自分達の手で護らねばならないという意識の芽生えを図る。	○

■ 地域貢献

項 目	実 施 計 画	自己評価
森林体験学習	<input type="checkbox"/> 柏原市との連携協定に基づく、近隣の小学生を対象とした森林体験学習を本学学生ボランティアにより実施する。	○
グリーンアドベンチャ (社団法人青少年流協会)	<input type="checkbox"/> キャンパス内に設定されたコース上の植物の名前や生態を付設ボードのクイズを解きながら学習し、キャンパスを野外活動で近隣地域の住民にも開放する。キャンパスの豊かな自然の中で自然に親しみ、植物をとおして生命の尊さとそれを育む環境保全の大切さを体感させる。	○
その他	<input type="checkbox"/> 星空を観察するという身近な方法で大気の汚れを実感し、大気汚染問題に対して関心をもって頂くことを目的とした「星空の観察会」の実施する。	○

■ 喫煙対策

項 目	実 施 計 画	自己評価
喫煙・分煙区域の指定	<input type="checkbox"/> 分煙対策として、引き続き禁煙区域の明示と喫煙場所の整理を行い、受動喫煙の弊害を抑制する。	○
啓発活動	<input type="checkbox"/> 喫煙者に対する健康意識の高揚や喫煙マナー向上に向けたPR活動を推進する。	○

■ 学内美化

項 目	実 施 計 画	自己評価
雑草の刈り取りとゴミの 一斉収集	<input type="checkbox"/> キャンパスクリーン週間を年間2回設け、教職員と学生による一斉雑草刈りとゴミの収集を行い、環境美化を図る。また、この週間中以外でも道具を貸し出し、有志で環境美化が実施できる対応とする。	○
花壇の整備	<input type="checkbox"/> 計画的に整備する。	○
植栽の剪定	<input type="checkbox"/> 定期的に植木剪定業者を雇い剪定する。	○

環境配慮実施計画

平成25年度の目標

■ 省エネルギー・省資源の推進

項 目	実 施 計 画
エネルギー使用量・温室効果ガスの削減	<input type="checkbox"/> エネルギー使用量及び温室効果ガス排出量を前年度比1%削減する。 <input type="checkbox"/> 太陽光発電設備の設置等自然エネルギーの導入を推進する。 <input type="checkbox"/> 掲示物等で省エネの啓発を行う。 <input type="checkbox"/> 廊下・トイレ等の照明の自動点灯・消灯装置への更新、教室等の照明器具のHf等照明器具等への更新、省エネに配慮した機器、システムの導入を推進する。
水使用量の節減	<input type="checkbox"/> 掲示物等で節水の啓発を行う。 <input type="checkbox"/> トイレの手洗い自動水栓の導入を行う。

■ 廃棄物の抑制

項 目	実 施 計 画
一般廃棄物の排出抑制	<input type="checkbox"/> 分別回収の徹底強化する。 <input type="checkbox"/> 大学生協のランチボックス等リサイクルする。 <input type="checkbox"/> 掲示によるマナー啓発活動の展開する。
用紙使用量の削減	<input type="checkbox"/> 用紙の両面利用を推進し、使用量の節減を図る。 <input type="checkbox"/> 学内連絡や会議用資料の説明保存等を紙から電子記録媒体にする。

■ 環境汚染防止

項 目	実 施 計 画
実験廃棄物等の管理	<input type="checkbox"/> 学長統括の下、大阪教育大学実験廃棄物等管理委員会において適正管理する。
実験廃棄物の廃棄	<input type="checkbox"/> 大阪教育大学実験廃棄物等取扱規程に基づき、実験廃棄物を排出する実験廃棄物等取扱者が、実験廃棄物等取扱責任者の指導監督の下、廃棄処分する。
実験用劇物等の管理	<input type="checkbox"/> 購入者がその都度、薬品名・薬品番号・購入単位・購入年月日・受入量・使用者を受払簿に記載する。 <input type="checkbox"/> 大量の物は屋外の鍵付き保管倉庫に、少量の物は屋内実験室等の鍵付き保管庫に保管する。 <input type="checkbox"/> 受払簿は保管庫倉庫内と保管庫内に保管する。 <input type="checkbox"/> 受払簿は使用する毎に記載する。

■ 環境教育等の充実

項 目	実 施 計 画
環境教育の充実	<input type="checkbox"/> 教材園での栽培を通して、自然環境の大切さを学ばせる。 <input type="checkbox"/> 学内環境を通して、自然環境の大切さを学ばせる。
環境保全意識の啓発	<input type="checkbox"/> 春と秋、年2回のキャンパスクリーン週間を設け、自分達を取り巻く環境は自分達の手で護らねばならないという意識の芽生えを図る。

環境配慮実施計画

■ 地域貢献

項 目	実 施 計 画
森林体験学習	□ 柏原市との連携協定に基づく、近隣の小学生を対象とした森林体験学習を本学学生ボランティアにより実施する。
グリーンアドベンチャ (社団法人青少年交友協会)	□ キャンパス内に設定されたコース上の植物の名前や生態を付設ボードのクイズを解きながら学習し、キャンパスを廻る野外活動で近隣地域の住民にも開放する。キャンパスの豊かな自然の中で自然に親しみ、植物をとおして生命の尊さとそれを育む環境保全の大切さを体感させる。
その他	□ 星空を観察するという身近な方法で大気の汚れを実感し、大気汚染問題に対して関心をもって頂くことを目的とした「星空の観察会」の実施 □ 幼稚園の遠足及び国際フェスティバル等の場所を提供する。

■ 禁煙対策

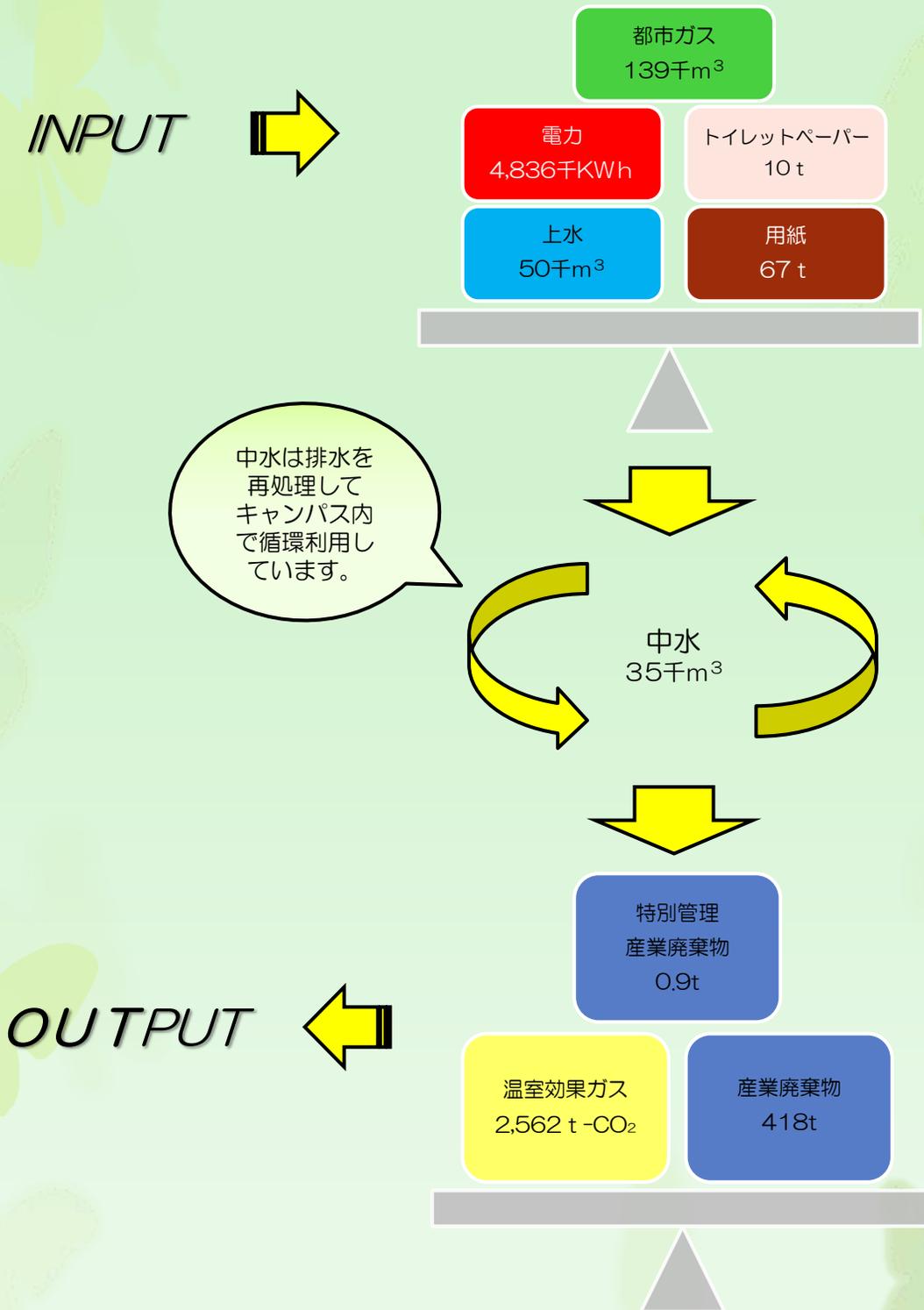
項 目	実 施 計 画
喫煙・分煙区域の指定	□ 分煙対策として、引き続き禁煙区域の明示と喫煙場所の整理を行い、受動喫煙の弊害を抑制する。
啓発活動	□ 喫煙者に対する健康意識の高揚や喫煙マナー向上に向けたPR活動を推進する。

■ 学内美化

項 目	実 施 計 画
雑草の刈り取りとゴミの一斉収集	□ キャンパスクリーン週間を年間2回設け、教職員と学生による一斉雑草刈りとゴミの収集を行い、環境美化を図る。また、この週間中以外でも道具を貸し出し、有志で環境美化が実施できる対応とする。
花壇の整備	□ 計画的に整備する。
植栽の剪定	□ 期日を決め定期的に剪定や草刈の実施をする。

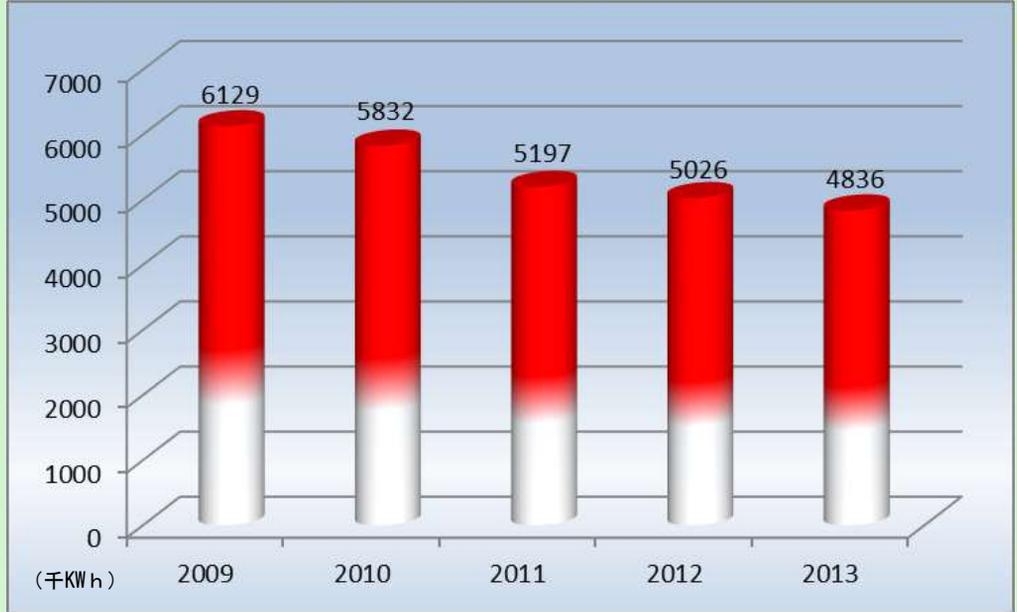
マテリアルバランス

マテリアルバランスとは、大学の活動に伴う環境負荷の全体像で、大学の活動のために投入する資源等をINPUT、大学の活動結果排出する環境負荷をOUTPUTとして表したもので、平成25年度の大阪教育大学柏原キャンパスのマテリアルバランスは下記の通りです。



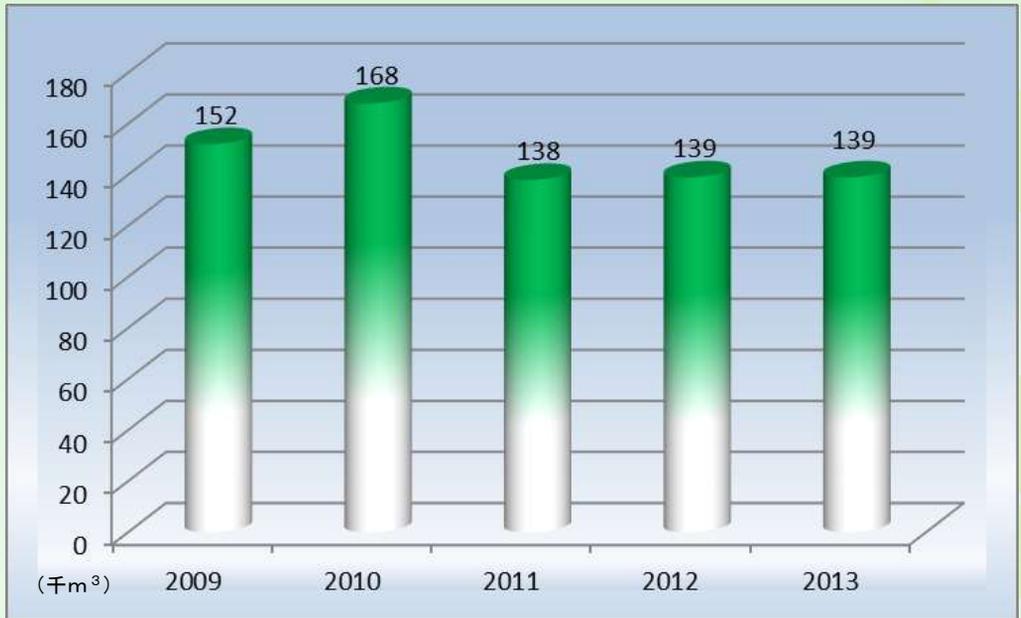
環境負荷データ

電力



●電力使用量削減のため全学的な省エネ活動を推進しています●
2013年度の電力使用量については、昨年に引き続き照明設備のLED照明等の高効率化の実施を行うと共に夏季及び冬季の省エネキャンペーン活動として、節電を実施したことにより、2012年度に比べ3.7%の電力使用量削減となりました。

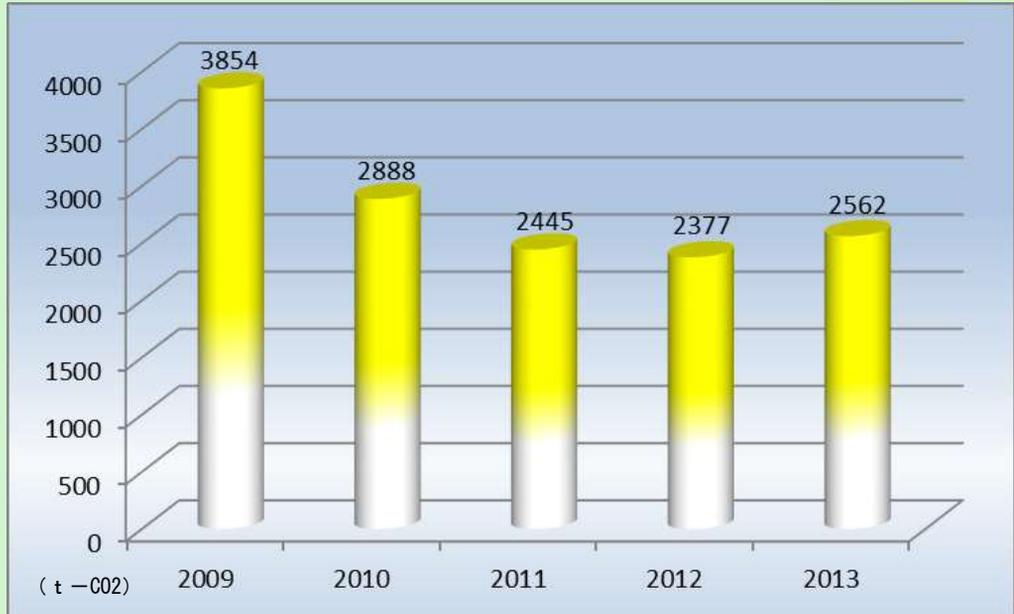
都市ガス



●ガス使用量削減についても全学的な省エネ活動を推進しています●
ガスヒートポンプ式空調機の整備として、空調設備の未整備箇所への整備を行いました。運用面では設定温度の抑制等を行いましたが、ガス使用量の大きな削減にはならず、2012年度と同程度の使用量となりました。

環境負荷データ

温室効果ガス

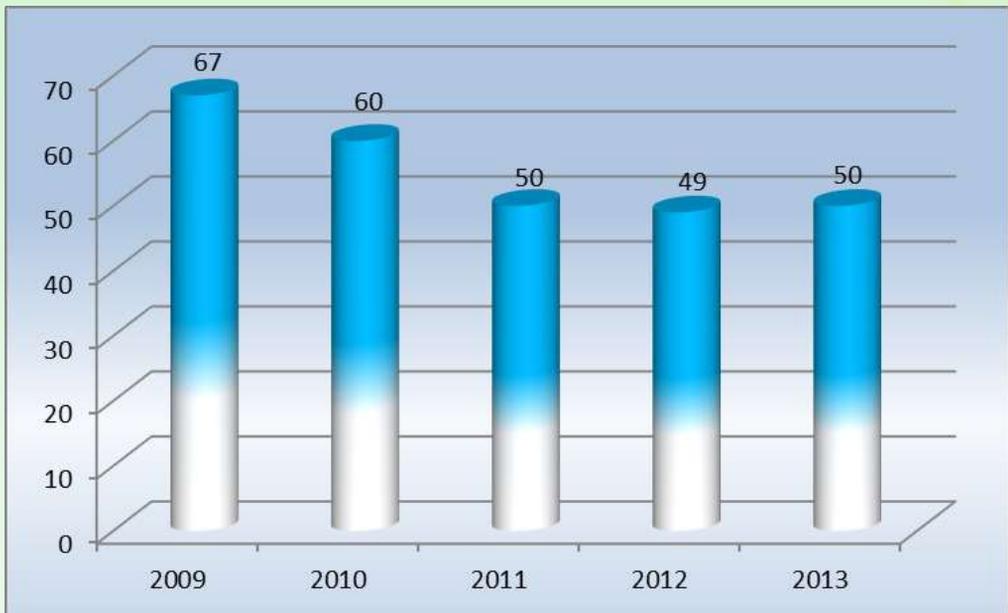


●温室効果ガス排出量削減に努めています●

2013年度の夏季及び冬季の省エネキャンペーン活動等の取組みにより電力エネルギーの消費が削減されましたが、電力の調達によりCO₂の排出係数が変動したため、2012年度と比べ7.7%の温室効果ガスの排出量が増加しました。

※電力のCO₂排出係数は「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令」第3条1項口で定める数値を採用しました。

上水

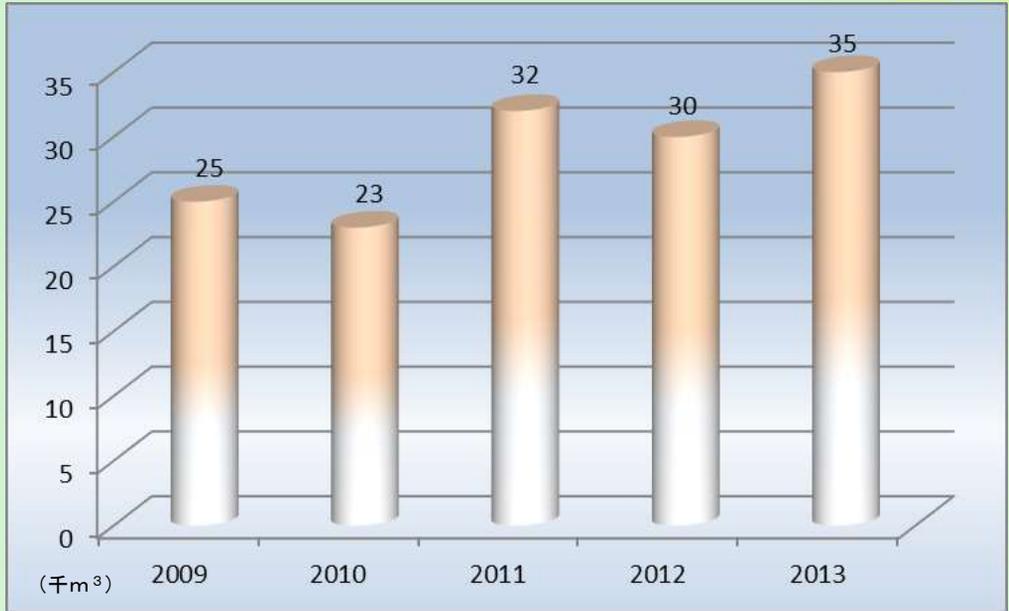


●節水対策により水の使用量削減に努めています●

自動水洗の導入やトイレの擬音装置の導入により2013年度も夏季及び冬季の省エネキャンペーン活動を行いました。2012年度ほぼ同程度使用量となりました。

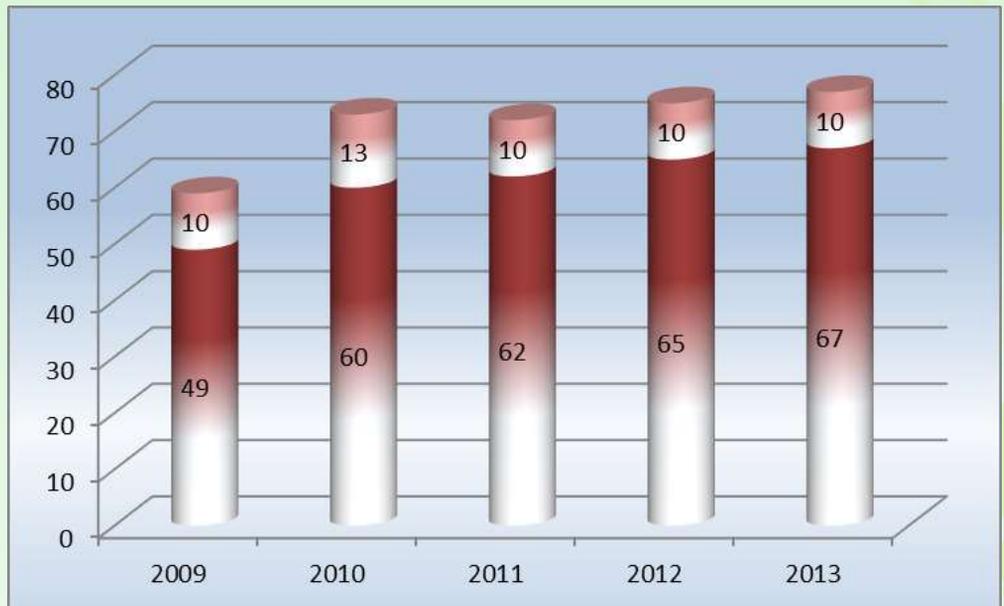
環境負荷データ

中水



●中水は排水を再生処理してキャンパス内で再循環利用しています●
生活系で使用した排水は生活排水処理施設で処理を行い、中水として柏原キャンパス内のトイレの洗浄水や樹木などの散水として循環利用を図っています。また余剰の処理水は環境汚染のない基準以下に処理され、河川に放流を行っています。2012年度に排水処理施設の改修（膜分離活性汚泥方式の採用）を行い自然に優しい排水処理を行っています。

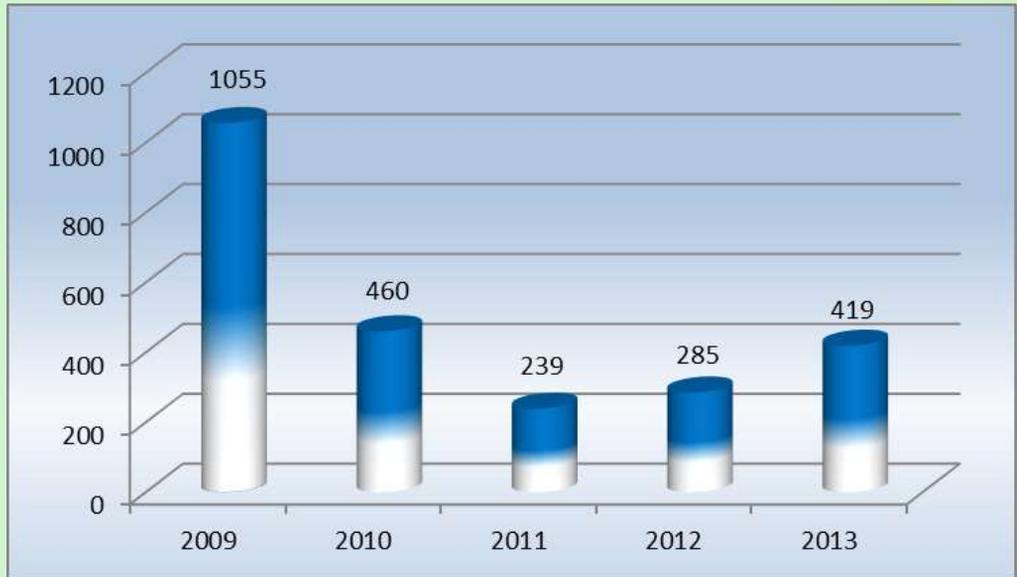
■ トイレトペーパー
■ コピー用紙



●コピー用紙及びトイレトペーパーの節減に努めています●
トイレトペーパーについては、2012年度と同程度の使用量でした。また、コピー用紙については2012年度に比べ2 t 増加しました。大阪教育大学学内グループウェアにより通知文書の電子化や学内会議の配布文書の電子化を行いペーパーレス化を図っています。また、縮小印刷など紙使用削減に努めています。

環境負荷データ

産業廃棄物 特別管理産業廃棄物



●産業廃棄物の削減に努め適切な処理を行っています●
産業廃棄物については老朽した備品が多く搬出されたため、2012年度に比べて134m³増加しました、特別管理産業廃棄物及び産業廃棄物は「廃棄物処理法」に基づき適正な処理を行っています。
※産業廃棄物は主に金属くず、木くず、廃プラスチック等を破砕した体積です。

■廃棄物の分別徹底とリサイクル

1. 一般廃棄物の分別収集

要所に分別ゴミ収集ボックスを配備して、分別収集を徹底し、委託清掃業者による毎日の清掃時に委託清掃業者が取りまとめて集積場に廃棄しています。

2. 特別管理産業廃棄物

特別管理産業廃棄物に該当する廃油、廃酸、廃アルカリ等については、随時産業廃棄物管理票（マニフェスト）により処理を業者委託しています。

また、ポリ塩化ビフェニル廃棄物（PCB廃棄物）は、PCB保管庫に保管しており、環境省「ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理基本計画」に基づき委託処理する予定です。

3. 産業廃棄物

酸・アルカリ等の実験廃液やそれによる汚泥、廃油、また、廃プラスチック・金属類等の産業廃棄物は鍵付きの厳重管理格納庫を設置し、集積状況を見て随時、産業廃棄物管理票（マニフェスト）により処理を業者委託しています。

4. その他のゴミの収集

冊子や紙類等は全構成員に回収日と収集場所を周知徹底し、リサイクル業者に回収処理を委託しています。粗大ゴミは鍵付き格納庫にコーナーを設け、リサイクル可能な物と不可能な物に分別し、学内再利用する物は学内ネットで広報し、必要者の再利用に供しています。

また、不可能な物については産業廃棄物管理票（マニフェスト）により処理を業者委託しています。

環境マネジメント活動の推進

環境保全活動の状況

○キャンパスクリーンデー

柏原キャンパスは草木1本もない採石採取場あとから出発しており、学生・教職員が共々作る「快適なキャンパス環境」を目指すこととしております。その一環としてキャンパスクリーン週間（6月30日から7月11日）を制定し、特に7月2日を一齐デーとして学内関係者に呼びかけ、除草・清掃をおこないました。

当日は天候にも恵まれ、多くの参加者の協力を得て十分な環境整備がおこなわれました。

また、一齐デー以外の日にもたくさんの協力をいただいております。

今後とも活動への理解と協力をお願いいたします。



キャンパスクリーンの様子

○どんぐり銀行への参加等

柏原キャンパスが始動する時に皆様方の協力により、新たな苗木や旧キャンパスからの引越でたくさんの樹木がこのキャンパスにやって来ました。あれから20年の時が流れ、大きく成長し、たくさんの実を結んでくれています。

たくさんの実を使っていろんな取組を行っています。

くぬぎ・マテバシ・榎などの木から取れたどんぐりを集めて送ると、苗木として生まれ変わり森林整備や庭の木として全国で活躍してくれます。



収穫したどんぐり



どんぐり銀行通帳



どんぐりキーホルダー



環境マネジメント活動の推進

森林の保全活動

今年の2月14日にここ何年ぶりの大雪が降り柏原キャンパスの北側を通っている西名阪高速道路や一般道も通行止めで回復したのは昼頃でありました。大阪市内はすぐに解けたようでしたがキャンパスは山の上にあることから雪が消えるのに数日を要したことにより雪の重みで構内の樹木にたくさんの被害がでました。構内の山や法面の安全を確保するために樹木の保育・森林の活性化させることにより山や法面の安定が図られるとともにCO₂の吸収が行われる森林の復旧整備をおこないました。転倒した樹木を利用して法面の土留をおこなう事により資源としての利用と吸収されたCO₂の固定が図られます。



倒木を根元から伐採



倒木材で行う法面土留柵



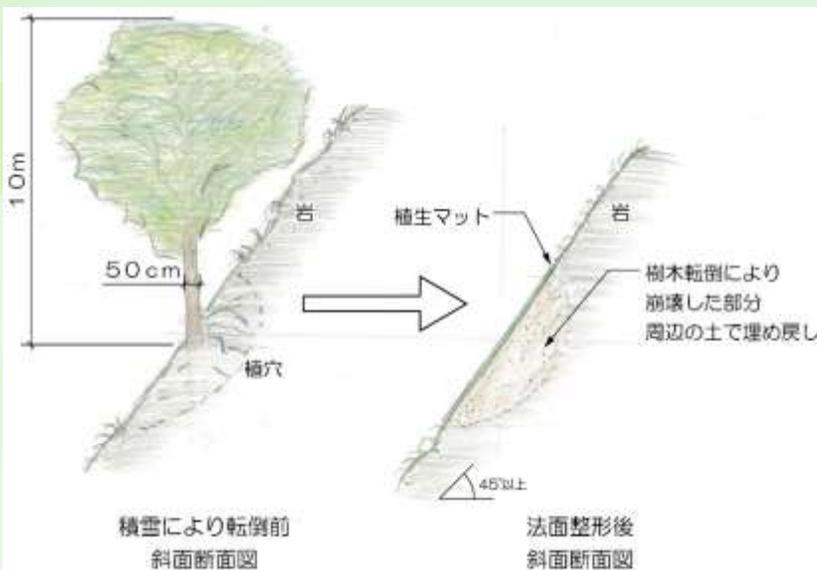
出来高測定



雪道で転ばない様に除雪作業



安心して帰路につく学生たち



法面復旧整備後



環境マネジメント活動の推進

環境保全活動の状況

みんなで花と緑に溢れたキャンパスにしようという整備計画

○エレベータ横の法面での取組

この法面はほとんどが小さな石で構成されており、草しか育たない所であったのですが、「花咲く法面にしよう」と、前長尾学長からの話で黄色や白色の水仙を少しずつ増やしておりますが、今回は色目を増やすことも考えつつの列植や階段緑への芝桜の植込みをおこないました。



ツツジの植栽



展望エリアからの眺め



芝桜の植栽

○新たな苗木への取組み

柏原キャンパスが始動する時に皆様方の協力により、新たな苗木や旧キャンパスからの引越でたくさんの樹木がこのキャンパスにやって来ました。あれから20年の時が流れ、大きく成長し、たくさんの実を結んでくれています。たくさんの実を使っている取組を行っています。



・構内での苗木作り
構内で集めた実を鉢や直植し、たくさんの苗木が育っています。もう少し成長を待って構内の各所へ植え、次の世代として働いてくれることを期待しています。



○大学会館につばめがやってきました。



6月末にはひなも巣立ち大空を飛びまわっています。「つばめの巣がかけられる家は繁栄する。」と言われる通り、大学がますます盛んになることを期待して来年もやってくる様にと巣のあった下を通るたびに思います。



環境マネジメント活動の推進 省エネルギー活動

○省エネ法の改正に伴う省エネ活動について

「省エネ法」と省略していつも言葉が飛び交っていますが、この法律の正式名称は「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」です。この法律は年々改定され、世の中の状況を調整する機能をもたせているようです。今回は夏・冬の昼間の電力縮小のための電力需要の平準化として（7月～9月・12月～3月の8時～22時）指定され年1%以上の低減義務付けが行われました。また、トップランナー制度の適用範囲を特定エネルギー消費機器からLEDランプ建築物材料（断熱材）へ拡大されました。

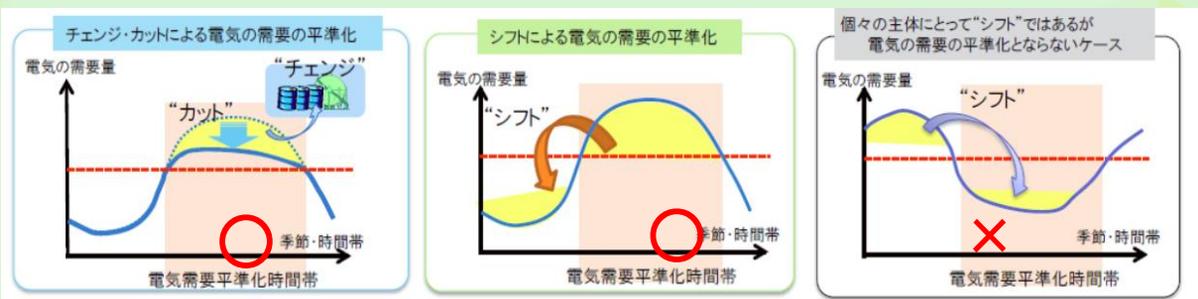
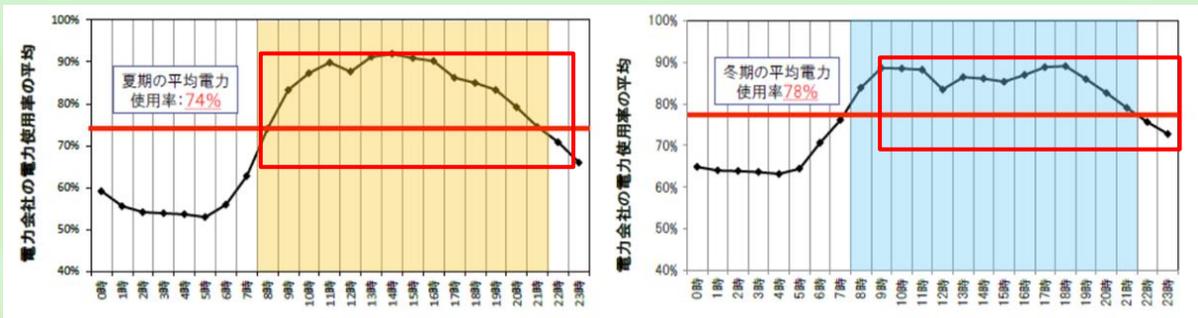
省エネ活動については昨年まで取り組んでいる「最大電力より10%の節電」をそのまま引き継ぐことと今回改定・施行を踏まえ下記の活動を行います。

主な活動

- ・電力需要の平準化（年1%以上低減）
- ・省エネ期間（電力需要の平準化） 夏季（7月～9月） 冬季（12月～3月）
- ・省エネ時間（電力需要の平準化） 8時～22時（夏季・冬季の期間中）
- ・最大電力の節電 平成22年度夏季（冬季）の最大電力値の10%節電

■電力の平準化を行う時間帯

※経済産業省資源エネルギー庁省エネルギー対策課の資料より引用



■電力の平準化に資する措置

※経済産業省資源エネルギー庁省エネルギー対策課の資料より引用

1 電気の使用から燃料又は熱の使用への転換（チェンジ）	2 電気を消費する機械器具を使用する時間の変更（シフト）	3 その他事業者が取り組むべき措置（カット等）
<ul style="list-style-type: none"> ➢ 自家発電設備の活用 <ul style="list-style-type: none"> ① コージェネレーション設備 ② 発電専用設備 ➢ 空調設備等の熱源変更 <ul style="list-style-type: none"> ① 空調設備 ② 加熱設備 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 電気を消費する機械器具の稼働時間の変更 <ul style="list-style-type: none"> ① 産業用機械器具 ② 民生用機械器具 ➢ 蓄電池及び蓄熱システムの活用 <ul style="list-style-type: none"> ① 蓄電池 ② 蓄熱システム 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ エネルギーの使用の合理化に関する措置 <ul style="list-style-type: none"> ① エネルギーの使用の合理化の徹底 ② 電気の使用量の計測管理の徹底 ➢ 電気需要平準化に資するサービスの活用

環境マネジメント活動の推進

省エネルギー活動

○平成26年度夏季省エネについて

概要

H24年度の以降関西電力管内での電力需給が原子力発電所の再稼働ができない等で、電力需要が逼迫することからこの夏においても本学では夏季省エネ計画を策定し、附属学校園を含めた取組みとして、夏季の節電目標を掲げて節電・省エネ活動を実施する予定としています。

- ・ 節電目標 平成22年度夏季の最大電力より10%の節電及び**電力需要平準化**
- ・ 期間 平成26年7月1日（火）から平成26年9月30日（火）

夏季省エネの具体的な節電・省エネ実施項目について

- ・ 電気予報の実施
- ・ 省エネポスターの掲示
- ・ 省エネステッカーの貼り付け
- ・ 省エネパトロールの実施
- ・ クールビズの励行（平成26年5月1日から平成26年10月31日の期間実施）
- ・ 未使用部屋の消灯：5%削減
- ・ 昼休み等休憩時間の消灯：5%削減
- ・ 自然光の活用（日中は窓側消灯）：5%削減
- ・ 未使用部屋の空調機運転停止：10%削減
- ・ 温度管理の徹底（冷房28℃）：1℃調整で10%削減
- ・ 冷房期間中、ドア・窓の開け放し防止：10%削減
- ・ ブラインドの有効活用：10%削減
- ・ 空調機フィルターの定期清掃：5%削減
- ・ 外気冷房（夏季の早朝、夜間および中間期）※網戸の活用
- ・ PC等省電力設定：70%～90%削減
- ・ 不要な周辺機器をパソコンから取り外す
- ・ PC等の長時間（約1時間30分以上）使用しない場合OFF
- ・ 冷蔵庫の庫内温度設定を「弱」モードにする：「強」から「中」した場合で11%削減
- ・ テレビ等のリモコン電源ではなく、本体の電源を切る：2%削減
- ・ 日中で明るい場所は照明を消す：5%削減
- ・ 長時間使用しない機器はコンセントからプラグを抜く：2%削減
- ・ 長時間（2時間以上）使用しない電気ポットは、プラグを抜く：25%削減
- ・ 節水に努める



でんき予報の掲示



省エネ活動状況

環境マネジメント活動の推進 エネルギー削減の取り組み状況

「省エネルギーおよび環境負荷軽減」

○ハイブリッド車の導入

柏原キャンパスの公用車として活躍していた旧ハイブリッド型が、新たなハイブリッド車(PHV)となりました。

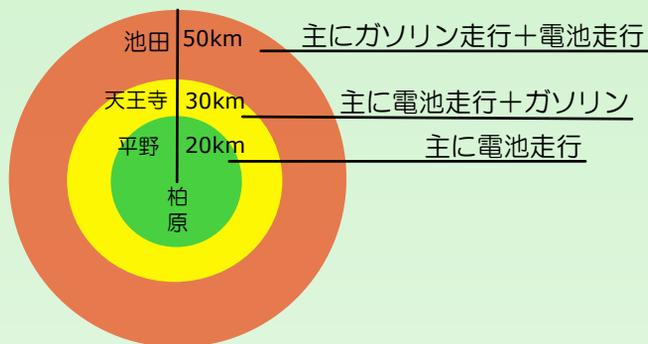
公用車の主な使用用途は、下記に示すように附属学校への用途が多く、平野や天王寺の20km程度の距離では充電した電気により市街地走行が可能となり、ガソリンの消費削減に大きく貢献し、この結果温室効果ガスの削減にも寄与することとなります。



新型ハイブリッド車



充電装置



距離による走行の形態

事項	旧型ハイブリッド車	新型ハイブリッド車	比較差
燃費(km/L)	31	61	30
温室効果ガス(g/km)	76	38	38
80,000km走行時の延べ温室効果ガス量(t-CO2)	6,080	3,040	3,040

環境マネジメント活動の推進

省エネルギーおよび環境負荷軽減

○排水処理施設改修による汚濁負荷量改善

平成2年に設置された排水処理施設は、設置後20年以上が経過し老朽化が目立ち、部品供給も困難な状況で、濾過能力も劣化していました。このことから瀬戸内海環境保全特別措置法に適した河川の水質を守るため、全窒素除去能力を改善させるため平成24年度に排水処理施設の改修を実施しました。改修前後における汚濁負荷量の変化をグラフに示しており、改修後においては汚濁負荷量が大きく改善される結果となりました。このことから、瀬戸内海の入口となる原川への排水汚濁負荷量も軽減されることとなり、環境に配慮した自然に優しく基準値を大きく下回る処理をする事ができるようになりました。



膜ユニットの概要



膜ユニット

○改修前後における汚濁負荷量の変化



月間最大値



月間平均値

排出基準値

窒素含有量 : 10mg/L以下
 りん含有量 : 1mg/L以下
 COD : 20mg/L以下

※排水処理施設の改修工事により問題となっていた汚濁負荷量が大きく低減する結果となりました。

環境マネジメント活動の推進 エネルギー削減の取り組み状況 「省エネルギーおよび環境負荷軽減」

○柏原キャンパス体育館照明設備改修

体育館の照明設備は設置後20年以上が経過し、老朽化のため電球切れや照度不足が目立ち初めてきました。このことから照明設備の老朽改善することとし、このたびLEDの照明器具に改修を行いました。これにより年間の消費電力削減と温室効果ガス削減が可能となります。

- 年間消費電力
改修前 約 185,000kwh/年
改修後 約 86,000kwh/年
99,000KWH/年削減
- 年間温室効果ガス排出量
改修前 約 83 t-CO2
改修後 約 39 t-CO2
44 t-CO2/年削減



○柏原キャンパス図書館及び情報処理センターECO改修

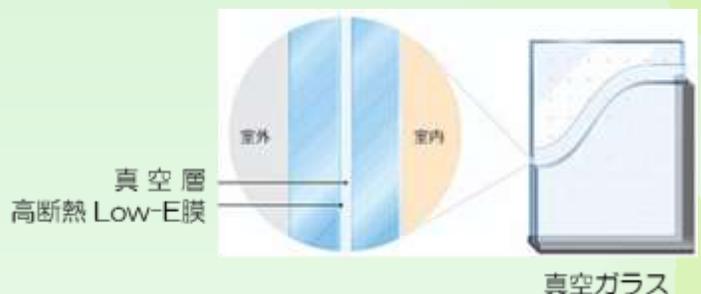
快適な室内環境づくりを目指し、既設サッシのガラスを真空ガラスへと取替工事を行いました。この改修工事により、室内の遮熱・断熱効果が高まり空調負荷の軽減効果や、結露対策の効果を得ることができます。



図書館



情報処理センター



真空ガラスは2枚のガラス間に真空層と特殊金属塗膜のコーティングにより、従来の複層ガラスの2倍、一枚ガラスの4倍の断熱性能を発揮します。

環境マネジメント活動の推進 安全安心への取組み

○大阪府NBCテロ対策訓練を実施

大阪府NBC（Nuclear/核兵器，Biological/生物兵器，Chemical/化学兵器）テロ対策訓練が，11月30日（土）に柏原キャンパスで実施されました。

大学内に不審者が侵入し，化学物質サリンをまいて多数の負傷者が発生したとの想定の下，大阪府下の消防，警察，自衛隊，DMAT（病院関係）などの各機関が参加して実施されました。当日は，訓練参加者約200名，訓練車輛約40台が参加し，周辺の市民も見学するなか，それぞれの組織の連携が確認されていました。



○平成26年度安全講習会を実施

平成26年度安全講習会を，4月30日（水）に柏原キャンパスA-314教室で実施しました。犯罪被害の予防啓発を目的に，大阪府警察本部と柏原警察署から現職の警察官6人を講師として招き，体験学習形式での講義を展開しました。

はじめに，大阪府警察本部生活安全指導班の女性警察官3名が，近年頻発している悪質商法や性犯罪について，犯人役と被害者役に扮した芝居で具体例を紹介しました。キャッチセールスでの断り方や，痴漢防止方法など犯罪への対策法を，時折笑いを交えながらわかりやすく学生にレクチャーしました。

続いて，自転車事故の事例をドキュメントタッチのDVDで鑑賞しました。内容を受けて柏原警察署交通総務係長の田中氏は，免許のいない自転車であっても乗用車と同じ車両であり，守るべきルールがあることを強調しました。

最後に，術科講師として，柏原警察署の剣道指導と柔道指導の警察官2名が，手本をみせながら護身術を指南しました。学生たちはペアになって実践練習し，試行錯誤しながらも手本のとおりに取り組んでいました。

いずれも，健全な学生生活を送る上で危険に近づかない，危険をつくらないことを強調しており，学生たちは熱心に聞き入っていました。受講した学生からは「毎年安全講習会に参加していますが，当たり前のようできて，とても大事なことを再認識できる場だと思います」「犯罪に遭った場合の対処の仕方もそうですが，犯罪に巻き込まれないための日頃の心がけが大事だと実感しました」との感想が聞かれました。



環境マネジメント活動の推進 安全安心への取組み

○国土交通省等の防災工事

特別企画「端橋ツアー」

国交省との連携による法面防災工事や大学進入路橋の補強工事など不断容易に見ることができない森分に簡易モノレールや仮設橋が設けられることから学長や理事にキャンパスの姿をみてもらいました。20年間、森に手が入っておらず相当あれている現状が見てとられたという意見を多くいただきました。



工事場所の視察



ツアーの内容

国交省の防災工事、北西進入路周辺の整備工事により日頃入ることが出来ない端（山林）橋（橋梁柱脚）見学会

日時 平成26年2月24日

13時から2時間程度

簡易モノレールによる山林縦走、旧軌道敷地から山林部の観察、親水公園背後の山林の縦走など

- ①：法面防災工事の遠望
- ②：簡易モノレールによる山林縦走
- ③：旧軌道敷地より山林部の観察
- ④：川を渡り山林の縦走

国交省との連携



防災工事の様子



国道165の防災工事（完了後）

北東門から出て柏原インターまでの山は国交省と大学の双方が所有しています。大学の所有している部分にも危険な法面が存在していたことがわかってきたこと、大学所有の部分が崩壊すると国道に影響するため国交省の予算で法面の改修がおこなわれました。大学所有部分は国定公園であることから樹木を残す技法で施工されています。白いコンクリート吹付部分が国交省部分になります。

環境マネジメント活動の推進 安全安心への取組み

○橋梁改修（北西橋梁・北東橋梁）

旭ヶ丘キャンパスは国定公園内に位置しているため、自然公園法の規定に従い、造成を最小限にとどめ、山岳地形を利用した配置構成となっている。そのためキャンパスへ接続している道路は、国道から大学の建築群がある地盤レベルまで標高差100m以上登っているため、北西進入路は敷地に隣接する河川をまたいでおり、また北東進入路は勾配緩和用ループ状となっているため、東西2ヶ所の入口はともに橋梁を設置しています。これら橋梁について、阪神淡路大震災で高速道路橋が倒壊したことなどを要因として「道路橋示方書」が改訂され、「落橋防止」「柱脚の水平力見直し」（設計水平力0.2→0.5）が追加されており、本大学の橋梁は改訂前に建設されていることから、補強を行い構造基準に適合させる必要があるため改修を実施しました。また、災害時における橋梁下部に敷設されたライフラインの安全安心を図るため、ガス緊急遮断弁を新たに設け、キャンパスの進入路確保ならびにライフラインの確保を図りました。

落橋防止装置



北東橋梁



北西橋梁



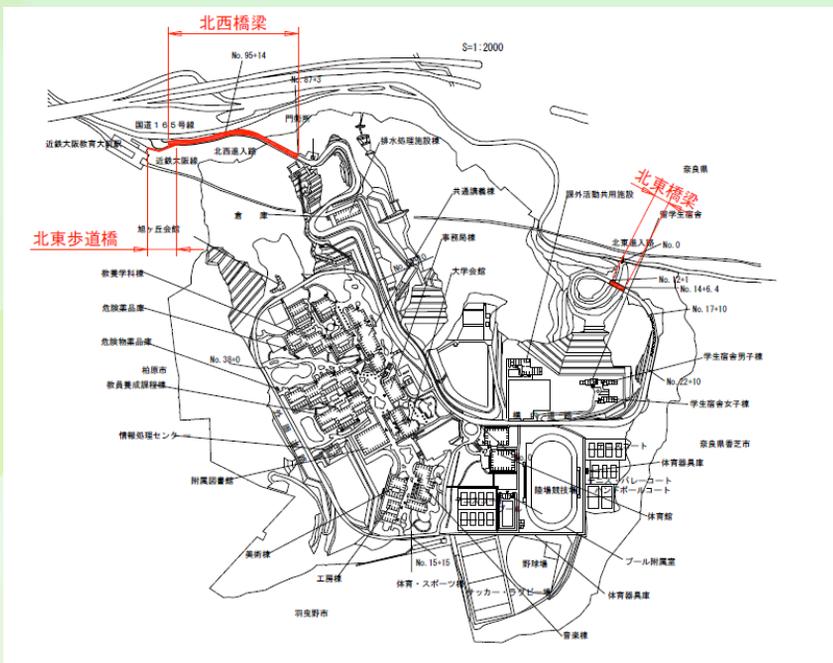
橋脚の補強状況



ガス緊急遮断弁



構内道路の再舗装



環境マネジメント活動の推進

安全安心への取組み

○緊急防災放送設備の整備

緊急防災放送の整備としては柏原キャンパス内に災害が発生した場合にその状況や避難誘導等の情報を的確で迅速に伝達する必要があります。このことから、緊急防災放送の整備としては、各建物に設置されている既存のスピーカ等の放送設備を利用し、また、屋外については新たに専用のスピーカを設置することによりキャンパス全域に放送を可能としています。放送信号は光ファイバーケーブルにより各棟の放送設備に伝送され音声信号に変換されたものを、スピーカから鳴動する方式としています。



放送エリア



スピーカの設置状況

○高置水槽及び防災貯水槽の整備

大学の給水は2系統に分けられています。ひとつは柏原市から供給されている上水と、もうひとつは排水処理施設で生まれた中水のふたつです。ともに大型ポンプで山の上の高置水槽まで圧送し、圧力差で各建物へ供給しています。今回の整備では高置水槽をそれぞれ増設し、配水容量を増やし、学生寮や構内宿泊施設など常時、人がいる所には配管途中に防災貯水槽を設け、少量の確保に努めています。



高置水槽（上水・中水）



防災貯水槽



○体育館武道場天井改修

武道場の天井等落下防止対策として、天井改修工事を行いました。改修方法としては非常災害時には避難場所として重要な役割を果たせるようまた安全と安心を十分に確保できるように、天井材を撤去する方法を選択しました。改修工事にあたり、残響時間測定をおこない試算予測をし、天井に吸音材を付加することで天井材撤去による音響環境が変化が生じないように心がけました。



残響時間の測定



武道場の改修後の状況

写真は高置水槽へ供給と、配水管の整備周囲の樹木を切り、管の管理がおこなえるようにしました。

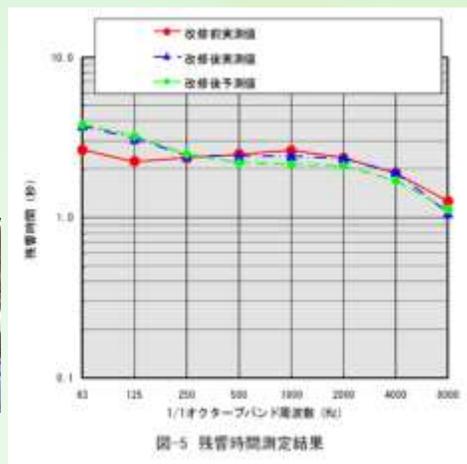


図-5 残響時間測定結果

環境マネジメント活動の推進

地域社会への取り組み

○自然研究講座の近藤教授らが河川水質及び水生生物の調査を実施

教養学科自然研究講座の近藤高貴教授と、教育学研究科（修士課程）理科教育専攻の大学院生を含むティーチング・アシスタント5人は、7月3・4の両日、羽曳野市立誉田中学校（墨村未来土校長）の3年生約196人を対象にした「河川（石川）の環境と水生生物」の特別授業を指導しました。

誉田中学校の東側を流れる石川の水質と水生生物を調べ、今後の河川の環境と水生生物との関係について考えることを目的にしています。この授業は、独立行政法人科学技術振興機構の「サイエンス・パートナーシップ・プログラム（SPP）」として、科学技術、理科・数学（算数）に関する生徒の興味・関心と知的探究心等を育成する教育活動の一環です。

3日（水）は柏原キャンパスで事前学習があり、近藤教授がスライドを使って河川の分類や水質汚染の指標、石川の概況、水生生物について講義をしました。また、水の汚れを測定する「パックテスト」の使い方について説明しました。

4日（木）は、石川河川公園でフィールドワークをしました。中学生らは川の浅瀬に入り、大学院生の指導を受けながら水質調査や、オイカワ、ナマズ、コイ、エビ、タニシなどの水生生物の調査を行いました。近藤教授は「河川での体験を通じて自然環境への関心を高めてくれたと思います」と話しています。



○「紙再生工房」所長の前橋誠士氏が“つたえる”をテーマに講演

一般教養科目『健康科学への招待』（担当：榎木泰介准教授）の7月11日（金）の授業で、特定非営利活動法人もなか会『紙再生工房』所長の前橋誠士氏がゲスト講師を務めました。障がいのある人々とともに、大阪市平野区に構える工房で、牛乳・酒パック等を再利用した手すき再生紙製品を製造・販売し、障がい者就労支援事業を推進しています。

授業では“つたえる”をテーマに、現場での利用者とのコミュニケーションを引き合いに、相手に伝えるための創意工夫について熱弁しました。「自分の持っている技能を全力で活用していますが、どうすればうまく伝わるのか、日々葛藤しています。しかし、だからこそ面白いのです。言葉に頼りすぎず、相手に寄り添いながら、身近な人より良い関係を築いてほしい」と学生にアドバイスを送りました。

受講した学生は「いかに伝えれば伝わるかの苦労や工夫を知り、自分にとって当たり前になっていたことが相手によればそうではなく、またその逆もあるということ気付かせてくれ、教師になる上での教訓となりました」「“伝えること”は“教えること”にも通じると感じました」と述べ、教育についても再認識する機会となりました。



環境マネジメント活動の推進 地域社会への取り組み

○「第5回柏原市民総合フェスティバル」が開催

第5回柏原市民総合フェスティバルが、9月28日（土）に開催されました。

今年から「文化・教育ゾーン」として、柏原市内に所在する他の学校法人とともにリビエールホールでパネル展示をしたほか、例年人気のモダン科学館、似顔絵のブースも今年はリビエールホールに出展しました。

また、昨年初めて実施し好評の本学「ウインドオーケストラ」（Wind Orchestra）の演奏会を、今年もリビエールホールで開催しました。「ウインドオーケストラ」は、教養学科芸術専攻音楽コースに在籍している管打楽器専攻の学生・大学院生を主体に構成されています。今回は特別ゲストとして、滋賀大学の中根庸介専任講師をオーボエのソリストに迎えて編成され、約60人のメンバーが演奏しました。

河川敷では、今年から「スポーツフェスティバル in 柏原」が開催され、本学学生によりパタンクが出展されました。

さらに河川敷の野外ステージでは、吹奏楽部、YOSAKOIサークル凜憧、フォーク集団ペンペン草がパフォーマンスを披露し、イベントを盛り上げました。凜憧は、野外ステージのあとにリビエールホール前でも演技を行い、多くの来場者が足を止めて見入っていました。



○「2014年柏原シティキャンパスマラソン」を開催

「2014年柏原シティキャンパスマラソン」（柏原市、柏原市教育委員会、大阪教育大学共催）が3月9日（日）、本学柏原キャンパスで開催されました。

毎年大和川河川敷公園で実施されていた「柏原市市民健康マラソン大会」が2013年に柏原キャンパスへ舞台を移し、さらに今回から名称を「柏原シティキャンパスマラソン」と改めました。コースは3km、5km、10kmと、2.5kmの親子ジョギングで、およそ1,000人のランナーたちがキャンパスを駆け抜けました。当日は応援ゲストにお笑いコンビ「女と男」、ゲストランナーにお笑い芸人の「がんばれゆうすけ」氏を迎え、さらに本学公式キャラクターの「やまお」と「たまごどり」、柏原市のキャラクター「かしびょん」も応援に駆けつけました。

開会式で長尾学長は「今大会は『柏原シティキャンパスマラソン』としては第1回目となります。天候にも恵まれ、絶好のマラソン日和です。皆さん大いに楽しんでください」と挨拶しました。

10kmコースをトップでゴールしたがんばれゆうすけ氏は、「坂はきつかったけど、沿道の声援のおかげでがんばれました。大学キャンパスはきれいで、走りやすかったです」と話しました。



環境マネジメント活動の推進

学内での取り組み

○大阪教育大生協の環境保護に関わる取り組み 「リサイクルのとりくみ」

生協では、食堂で販売するテイクアウト弁当の容器としてリサイクル可能な「ホッかる」を使用しています。生協学生委員会が、昼休みや放課後に容器を回収したり、ホッかる容器をオブジェにみだた回収BOX（通称でっかる）を持って昼休みに学内を巡回し、リサイクルを呼び掛けるキャンペーン「ホッかるビフォーアフター」等を実施しました。2013年度の容器回収率は、年間平均で前年から1.6ポイントアップの22.6%でした。



回収ボックス及びリサイクル取組ポスター



昼休みの呼びかけの様子



ホッかる容器

環境マネジメント活動の推進

学内での取り組み

○大阪教育大生協の省エネルギーに関わる取り組み

生協では、前年と同様、夏と冬の2回、大学をあげての省エネキャンペーンに生協としても積極的に協力してまいりました。大学のチェックリストをもとに独自のチェックリストを作成し、空調の温度管理、照明の一部消灯、エアコンフィルター等の清掃、事務機器の主電源OFFなどにとりくみました。生協施設内での電気使用量は夏期5.0%、冬期は増加となりましたが、年間では1.5%の削減となっています。また、9-10月にかけて改装を行った書籍購買では、冷蔵ショーケースを増やしましたが、省エネ型に変更したため、冬期の省エネキャンペーン期間中14.5%、と大きく前年より削減できました。

生協(厨房機器、厨房ファン、書籍購買空調、自販機)の使用電力量

	使用量(KWH)	金額	対前年削減量	対前年削減率	22年比削減量	22年比削減率
24年夏省エネ期間	118,585	1,977,998	▲ 5,713	4.6%	▲ 21,715	18.3%
24年冬省エネ期間	124,298	1,936,563	▲ 16,002	12.9%	▲ 14,830	5.8%
24年度年間	476,593	7,949,571	▲ 9,156	1.5%	-	-
25年夏省エネ期間	112,924	2,025,857	▲ 5,661	5.0%	▲ 27,376	24.2%
25年冬省エネ期間	118,585	1,977,998	9,125	-8.3%	▲ 14,830	5.8%
25年度年間	469,389	8,420,833	▲ 7,240	1.5%	-	-
購買のみ25年冬	17,176	308,137	▲ 2,482	14.5%	-	-
購買のみ25年年間	74,677	1,339,705	▲ 10,950	14.7%	-	-

省エネ・節電の実施状況

生協の省エネキャンペーン
 <2013年7月～9月実施中！>

全学をあげての省エネ推進、最大電力量(平成22年度比)10%削減の目標達成のため、生協も様々な節電に取り組んでいます。組合員の皆さんも食堂や購買のドアを閉める等、ご協力をお願いいたします。

【主な節電実施項目】

- TERRA・第2食堂・カフェ・レストランホール 照明の開店前消灯、昼間一部消灯
- 購買の照明の一部間引き
- 自動販売機の照明の終日消灯
- 自動販売機コンプレッサーの部分停止
- 大学会館廊下照明の一部消灯
- エアコンの設定温度・風速管理
- 出入口の開放厳禁(混雑時以外)
- 事務機器電源OFFの徹底

UNIV C.O.O.P. 大阪教育大学生協同組合

大阪教育大学・25年度冬の省エネキャンペーン

生協は省エネのため以下のとりくみを実施しています！

- * TERRA・第2食堂・カフェ・レストラン FORETホール照明の開店前消灯および閉店後即時消灯、昼間時窓際消灯
- * 自動販売機の照明の終日消灯
- * 空調(暖房)の設定温度管理
- * 空調(暖房)の営業終了時停止
- * 空調・冷蔵ショーケース等のフィルター定期清掃
- * 出入口の開放厳禁(混雑時以外)

全学をあげての省エネルギー推進のため、生協も節電に取り組んでいます。組合員の皆さんも食堂やショップアイリスのドアを開けたら閉める等、ご協力をお願いいたします。

UNIV C.O.O.P. 大阪教育大学生協同組合

組合員への協力よびかけポスター

環境マネジメント活動の推進

学内での取り組み

○大阪教育大生協のキャンパス内福利厚生を充実させる取り組み 「Shop IRIS（アイリス）リニューアルオープン」

生協では、2013年秋に柏原複合店を“Shop IRIS “（アイリス、公募で決定）としてリニューアルオープンしました。この改装は、“キャンパスコンビニ”をコンセプトに、①昼の混雑時に欲しいものが迷わず素早く購入できること、②いつでも欲しい状態で購入できること、③快適で居心地のよい空間となること、を目指して行いました。食品の売場面積を約2倍に広げて通路を広く確保し、書籍は企画棚やシャッターパネルで魅せる売場づくりを、複数に分かれていたカウンターを1か所にして窓口をわかりやすくしました。



リニューアルオープン当日



間接照明等にはLEDを使用



冷蔵ショーケースは増設しましたが、省エネ型に変更

環境マネジメント活動の推進

○キャンパスを守る施設

採石場あとを大学キャンパスにするために、地下に見えない施設がたくさん設けられています。この施設群により安全が担保されていることを忘れないようにしながら、キャンパス整備をおこなうことが重要であります。



航空写真

暗渠：地下部分に水がたまらないように旧谷筋分に設けられた、たくさんの排水施設

地下堰堤：水の進入をふせぐために地下にもうけられた堤

柏原キャンパスマップ配置図

1



共通講義棟 H2 RC3F
7,078㎡
講義室、視聴覚教室、情報処理実習室、
IT教室などが対応。

2



教養学科棟 H3 RC4F
12,894㎡
講義室、実習室、研究室などがあり、
教養学科の講義、研究が行われています。

3



教員養成課程棟 H3 RC4F
19,010㎡
講義室、実習室、研究室などがあり、
教員養成課程の講義、研究が行われています。
入試課は1階1階にあります。

4



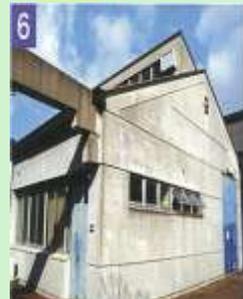
事務局棟 H6 RC4F
4,369㎡
学務部のほか、管理部、学術部などがあります。

5

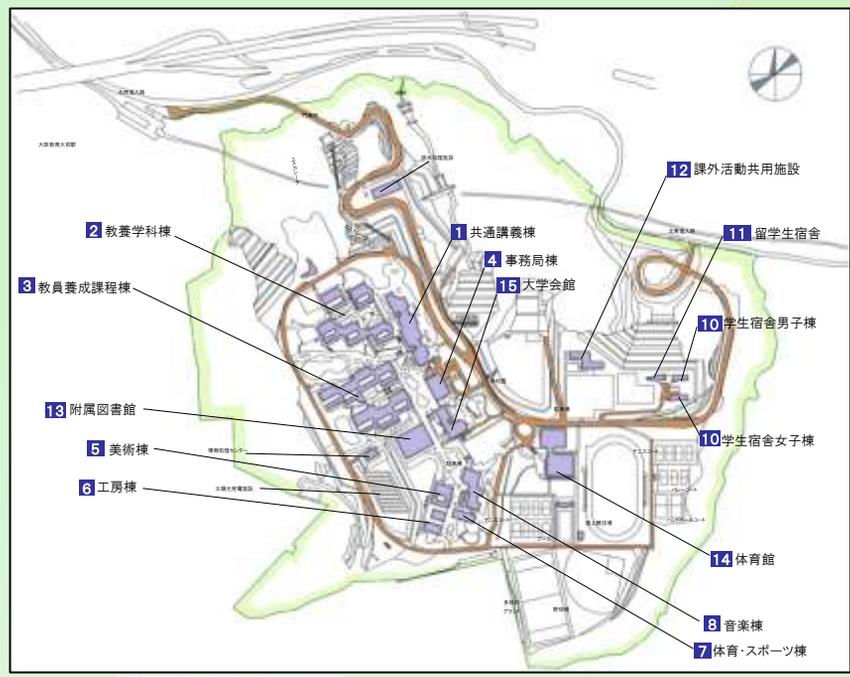


美術棟 H3 RC3F
2,659㎡
絵画室、デザイン室、書道室、講義室、
研究室などがあります。

6



工房棟 H3 RC1F 797㎡
彫刻室、金工室、立体室、木工室、窯工室、
研究室などが設けられています。



7



体育・スポーツ棟 H3 RC4F
1,745㎡
実験実習室、講義室、セミナー室、
研究室などがあります。

10



学生宿舎 H5 RC5F 2,560㎡
男子学生宿舎(18寮定員90名)が1棟、
女子学生宿舎(16寮定員90名)が1棟あります。

11



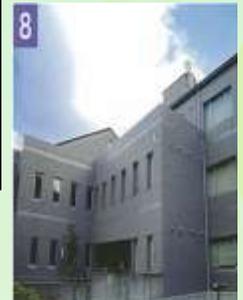
留学生宿舎 H6 RC4F 1,004㎡
40室(寮定員男性18人、女性22人)があり、
留学生に居住の場を提供しています。

12



課外活動共用施設 H6 RC2F
1,989㎡
体育系共用室、文化系共用室、合宿室などがあり、
課外活動の拠点になっています。

8



音楽棟 H3 RC4F 4,084㎡
リハーサルホール、実習室、練習室、講義室、
研究室などがあります。

13



附属図書館 H3 RC3-1F 7,224㎡

14



体育館 H4 RC1F 1,770㎡

15



大学会館 H3 RC4F 3,677㎡

団地の所在地

柏原地区

- 1** 柏原キャンパス
大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1

天王寺地区

- 2** 天王寺キャンパス
大阪市天王寺区南河堀町4-88
附属天王寺中学校・附属高等学校天王寺校舎
大阪市天王寺区南河堀町4-88

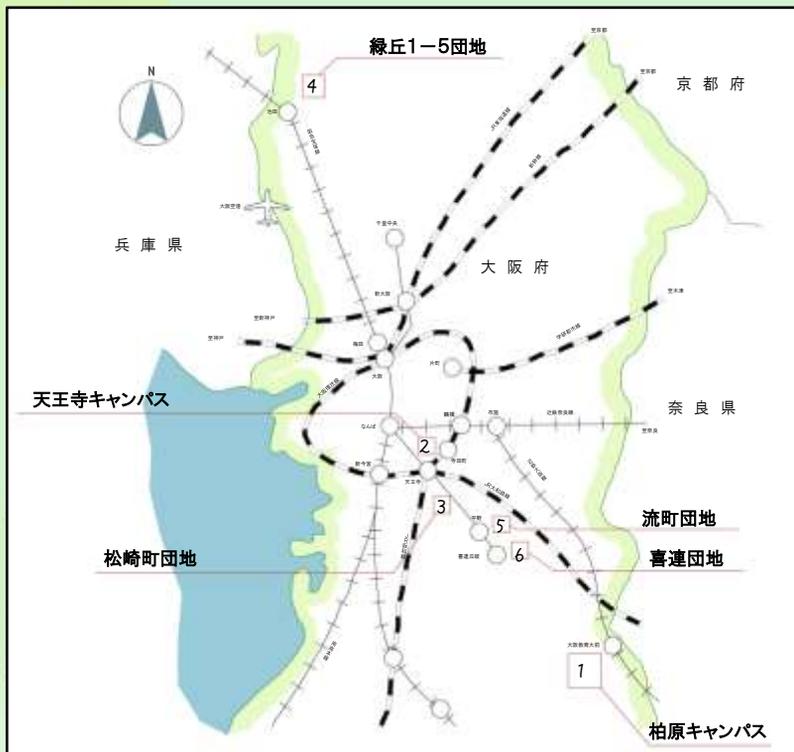
- 3** 松崎町団地
附属天王寺小学校 大阪市阿倍野区松崎町1-2-45

池田地区

- 4** 緑丘1-5団地
附属池田小学校 池田市緑丘1-5-2
附属池田中学校 池田市緑丘1-5-1
附属高等学校池田校舎 池田市緑丘1-5-1
学校危機メンタルサポートセンター

平野地区

- 5** 流町団地
附属幼稚園 大阪市平野区流町2-1-79
附属平野小学校 大阪市平野区流町1-6-41
附属平野中学校 大阪市平野区流町2-1-24
附属高等学校平野校舎 大阪市平野区流町2-1-24
- 6** 喜連団地
附属特別支援学校 大阪市平野区喜連4-8-71



キャンパスの特徴

大阪教育大学には柏原キャンパスの他、11の附属学校園が設置されている。大阪市内の天王寺地区及び平野地区、大阪府北部の池田地区に分かれて置かれ、いずれも大学との連携のもと、教育研究・教育実践・教育実習の場として重要な役割を果たすとともに、それぞれ地区ごとに連絡進学をはじめさまざまな相互連携をとり、下記のような特徴を持っている。

○柏原キャンパス

平成元年より天王寺、平野、池田より統合移転し、大学の本部を置くキャンパスである。

○天王寺地区

教育学部（二部）、大学院（夜間）と附属天王寺小学校、附属天王寺中学校・附属高等学校天王寺校舎を有するキャンパスで「基礎・基本の確かな育成」「中高一貫教育の長い歴史」を目標にしている。

○池田地区

附属池田小学校、附属池田中学校・附属高等学校池田校舎を有するキャンパスで「生きる力の育成・国際教育の基盤作り」「国際教育・国際理解教育と異文化交流」を目標にしている。

○平野地区

附属幼稚園、附属平野小学校、附属平野中学校・附属高等学校平野校舎、附属特別支援学校を有するキャンパスで「相互連携した教育・研究」「5校園構想への取組みと異校種交流学习」を目標にしている。



編集後記

本環境報告書は大阪教育大学の安全安心キャンパスや省エネ活動への積極的な取り組み、環境配慮活動についてまとめたものです。さらなる本書の充実と本学の環境への取組についてご指導、ご支援をお願いいたします。

お問い合わせ先

国立大学法人 大阪教育大学

管理部施設課企画係

電話：072-978-3333

FAX：072-978-3345

mail：sisetuka@bur.osaka-kyoiku.ac.jp

URL：http://osaka-kyoiku.ac.jp/